

新 防災力

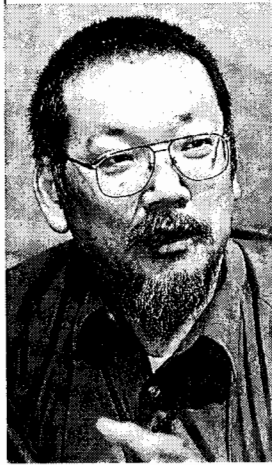
あすに備える

06 06/24

「被災地NGO協働センター」代表

村井 雅清さん

むらい・まさきよ。「CODEE 海外災害援助市民センター」理事・事務局長を兼務。「震災がなくなると全国ネットワーク」顧問。55歳。



痛みの共有と対話忘れず

「被災地NGO協働センター」代表の村井雅清さん。被災地に行くからこそ、多様なニーズの被災者に対応できる。多様な目でみることで、こぼれる被災者をださない。行政では目の届かないようなすき間を見つけて、そこを埋めていく。潤滑油のような役割がボランティア。だから、十人十色の人が集まることに意味がある。「人にいわれてするのはな

彼は、市場に行く、おじいさんの手をひくでもなく、30分くらい離れて後ろを歩く。水たまりがあると、板敷を拾ってきてその上に置く。「これでええか?」「うん、ありがたう」「大丈夫か?」「うん、大丈夫や」と互いにコミユニケーションをとりながら、また後ろを歩いていく。

「ボランティアをする側とされる側が常に会話をして、必ず相手の確認をとって、返事を聞いてから次の行動に移る。相手の自己決定を尊重したうえで行動している。よかれと思って勝手にボランティアをしてることも多いが、それは自分勝手に協働性がないからボランティアではない。自己決定を保障することが大事なんです」

「国内はもとより、海外での災害支援は40回を数えます。最初は震災のあった年の5月。サハリンで地震があり、スタッフだった定時制高校の女子生徒が「なんか、甘えんぼ?」と賛

同したもう1人、定時制高校の男子生徒と一緒に責任持ってやるのならば、やろうかと。結局、コンテナ16本、70トンの救援物資を送った。この2人には多くのことを教えられました。96年に雲南で地震があったときも、始まりは「大変やなあ」という一言から。「お互いさま」という痛みの共有。大変やと思わなかったら終わりです」

ボランティア活動によって新たな価値観も生まれました。「最も大きな価値観の転換は、最後の1人まで救おう」ということ、つまり、「たった1人をも大切にしよう」という考え方です。たった1人にこだわってきたのが、震災をきっかけに広がった災害救援ボランティアです。それを日頃の支え合いにもつなげたい。例えば、災害に備えて介護の必要な人の支援態勢を築いておくのが重要です。大震災で生き残った者として、1人の命もおろそかにしてはいけないと思う」

阪神大震災が起きた1995年は、「ボランティア元年」といわれている。震災後の5年間に延べ130万人を超えるボランティアが被災地にやってきた。こうした活動の広がりにはNPO法の制定につながり、社会の仕組みを変える原動力にもなった。新たな価値観を生み出したという意味で「ボランティア元年」だったのだ。いまや欠かれない存在となった災害救援ボランティアの役割について考えてみる。(編集委員・野呂雅之)

ボランティア活動はいつかボランティアなんて言葉もなく、から始めたのですか。

「原点は水俣病の患者さんとの出会い。神戸の高校を卒業後、会

社に勤めながら水俣病を患っている。3年ほどで勤め先を首になり、港で荷役作業の日雇い労働をしていては、この問題から一生目を離す。30歳を超えて靴業界に移り、

災害救援ボランティア

職人として長年に自分の工房をもったのが43歳の時。それから2年余りで阪神大震災が起きました」

「震災の当初は地元の保育園が拠点でしたね。」

「工場は壊滅状態で、僕の工房は燃えなかったが、室内はぐちゃぐちゃになってしまった。被災者が集まっていた保育園の園長から手

「ボランティアのまとめ役になった」

「ミーティングでいろんな意見が出たんで、まとめようとしたら、なんで、まとめなアカんの?」

「いわれてビックリした。一定の時間、協議を重ねたら、まとめるのが当たり前と思ってた。そこから僕の価値観は変わっていった」

「ボランティアの役割って何ですか。」

「人間は十人十色。いろんな考え

「ボランティアのまとめ役になった」

「ミーティングでいろんな意見が出たんで、まとめようとしたら、なんで、まとめなアカんの?」

「いわれてビックリした。一定の時間、協議を重ねたら、まとめるのが当たり前と思ってた。そこから僕の価値観は変わっていった」

「ボランティアの役割って何ですか。」

「人間は十人十色。いろんな考え

「ボランティアのまとめ役になった」

「ミーティングでいろんな意見が出たんで、まとめようとしたら、なんで、まとめなアカんの?」

「いわれてビックリした。一定の時間、協議を重ねたら、まとめるのが当たり前と思ってた。そこから僕の価値観は変わっていった」

「ボランティアの役割って何ですか。」

「人間は十人十色。いろんな考え

「ボランティアのまとめ役になった」

「ミーティングでいろんな意見が出たんで、まとめようとしたら、なんで、まとめなアカんの?」

「いわれてビックリした。一定の時間、協議を重ねたら、まとめるのが当たり前と思ってた。そこから僕の価値観は変わっていった」

「ボランティアの役割って何ですか。」

「人間は十人十色。いろんな考え

「あなたの備えは」を開きます。12回シリーズの第2回は7月12日の開講で、講師は村井雅清さん。申し込みは同カルチャーセンター(06・6222・5222)へ。

関西学院大学災害復興制度研究所と朝日カルチャーセンターが共催で7月から、市民のための防災・危機管理講座「関西を再び大地震が襲うと